

学校運営方針		学校運営計画		評価
生徒に国家・社会の有意義な形成者となるための「知・徳・体」の調和のとれた教育を施し、確かな学力を育成し、他者との関わりの中での在り方・生き方や使命感を自覚させ、いじめの撲滅はもとより心豊かで力強い生き方ができる人間の育成に努める。				
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標	
<p>(成果) 産業教育フェアや地域交流イベントなどに積極的に参加することで、本校の魅力をアピールした。基礎学力定着のための「朝学習」を継続的に実施することで、海運関係21名をはじめとする93名の就職、大学や本校専攻科などに13名が進学するなど希望進路実現を達成することができた。体験航海や体験入学をはじめ、さまざまな地域交流により、本校の特色化・活性化をアピールすることで、中学校や地域から信頼される学校づくりを進めることができた。</p> <p>(課題) いじめの未然防止に取り組み、生徒一人一人が安心・安全で「居場所」のある学校生活ができる学校づくりを推進する。基礎学力の定着、向上のために毎日15分間の「朝学習」において、きめ細かな指導を粘り強く行うことで、生徒一人一人の進路を実現する。「海に学び 食に学ぶ 水高」のもと、生徒一人一人が輝くことができる船舶職員、水産、海洋関連業界、食品関連業界などへの人材を育成する。平成29年秋に「第37回豊かな海づくり大会福岡大会」が宗像市鐘崎で開催される。県内唯一の水産高校であり、開催地地元の高校として積極的な参加を推進する。</p>		<p>水産人としての基礎・基本の確実な習得と自ら学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>水産業や海洋産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を目指す。</p>	<p>〇日々15分の「朝学習」をもとに、家庭学習の習慣化を図る。授業改善、放課後課外等を行い、確かな学力を育む。</p> <p>〇専門分野の知識・技術を生かした資格取得をめざすなど、「水産人」としての生徒の希望進路実現・自己実現を支援する。</p> <p>〇指導と評価の一体的な改善を行い、生徒の学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神等を育む。</p> <p>(アクティブ・ラーニング、鍛えほめメソッドの実践)</p> <p>〇生徒との信頼関係のもと、積極的な生徒指導を展開し、「爽やかな挨拶・端正な身だしなみ・心とむすび清掃活動」等を徹底し、『マナー日本一水高』をめざす。</p> <p>〇いじめの撲滅や差別を見逃さない組織作り、『生徒一人ひとりが「安心」「安全」で、「居場所」ある学校づくり』を推進し、</p> <p>〇部活動・生徒会活動及び学校行事の更なる活性化を図り、本校の特色化を推進する。</p>	
<p>「知育」</p> <p>「徳育」</p> <p>「体育」</p>		<p>基礎体力および物事をやり抜く忍耐力や責任感の育成</p>	<p>〇「体力向上プラン」により、基礎体力を向上させ、学校と家庭、地域社会が連携・協力し、生徒の心身の鍛錬に努める。</p> <p>〇健康・安全に関する意識を高めさせるとともに、心身の調和的 発達を図る。</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部 教務課	知育	基礎学力向上と高度な専門知識や技術の習得	授業規律を徹底させ、1時間1時間の授業に集中し真剣に取り組ませる 観点別評価に基づき、アクティブラーニングなどを取り入れた授業改善を図り、生徒の学ぶ意欲を高める	
	徳育	授業および特別活動を通じ言語活動の充実と倫理観の醸成	週一回、朝学習を活用し「心の教育」を計画・実施する 道徳推進委員会を開催する	
	その他	生徒募集につながる広報活動の推進	中学校を担当制にし、年3回の訪問を目指す 生徒の出身を多く作り、適切な指導のもと自覚と誇りを持たせる	
生徒指導部	徳育	いじめのない学校づくり	月1回のアンケート調査の実施及び生徒の言動、小さな変化にも教職員が目配る。 関係教員との情報を共有し、早期発見・早期対応を実施していく。	
	徳育	基本的な生活習慣の確立	月1回の服装頭髪検査を実施し、身だしなみ意識の向上を図る。 登下校、授業の開始終了時等、全教職員で、質の高い挨拶を追求し、指導する。	
	徳育	生徒会活動の充実	生徒会活動及び委員会活動の充実により、生徒自らの行動意識を高める。 部活動加入率を上げ活性化を図る。	
進路指路部	知育	就職・進学決定100%	進路ガイダンスや講話を実施し、進路意識を高める。 進学希望者の学習会を実施し、学習習慣を身に付けさせる。	
	知育	資格取得の推進	年間の資格スケジュールを提示し、計画的な資格取得を勧める。 資格取得者の表彰や掲示を行い、生徒の意欲を高める。	
	その他	企業訪問の実施	1学期、3学期に企業訪問を計画し実施する。 生徒の希望進路に合った進路開拓を行う。	
第1学年	知育	進学、就職と必要最低限の学力を身に付ける前提として、最低限の学習姿勢を身に付けさせる。	4年生大学進学希望者には、放課後の学習会を早期に実施する。 授業規律を重視し、形からでも学ぶ姿勢をつくるように指導する。	
	徳育	450～500日後の自分を生徒にイメージさせるように、長期的な視野と思考を持てるようにする。	制服、靴、スリッパなどが試験に耐えられる状態であるように指導する。 「やるべきことをやる」生徒に仕上げる。	
	体育	集団としてまとまり、かつ集団内の規律が個々を律する行動を求め。	学年指揮を生徒とし、生徒が学年を育てる意識を持つように指導する。 問題行動は学年全体のものととらえ、学年集会をその都度、実施する。	
第2学年	徳育	基本的な生活学習習慣の確立と社会性を身につけさせる	欠席、遅刻、早退の防止に努める。特に無断欠席を防止する。 授業中はもちろん、家庭での学習習慣を育成する。	
	知育	進路意識を涵養する	進路希望先を明確にさせ目標を設定させる。 進路先と希望生徒との相性などを考慮した進路指導を行う。	
	知育	水産生としての自覚を持ち、水産業各分野の専門性を高める	水産業界で生き抜く力として資格取得を促す。 豊かな海づくり全国大会や修学旅行などの行事を通じリーダー育成を行う。	
第3学年	知育	進路決定100%。	進路ノートを活用し、1学期末までに進路指導室全利用を目指す。 1学期中に進路指導を終わらせる。4月学年主任面談。5月履歴書指導。6月面接指導。4月調査書作成。	
	徳育	科、コースの特性に応じた進路決定。	各コースの先生と協力し、面接指導を複数の教員が行う。 進路先や、就職先と希望生徒との相性などを考慮した進路指導を行う。	
	体育	学年で共通理解を持ち、進路指路部・各コースと連携をとり指導をおこなう。	朝礼、終礼、学年集会、朝学習等を利用して、試験で合格を勝ち取れるような態度を身に付けさせる。 学年内で情報を共有し、進路指路部、各コースと連携をとって指導をおこなう。	
企画教務部	徳育	マナー日本一水高を目指した行事の運営	式典・学校行事等を円滑に運営し生徒の水産生としての自覚およびマナー向上の一助とする 危機管理マニュアル・避難訓練を通して生徒の安心・安全を図る	
	知育	生徒の自尊感情・向上心・チャレンジ精神を高める広報	ホームページ更新を速やかにし「今頑張っている水産生」を伝える 水産高の特色ある学校行事等の外部への広報(福津市等)	
	その他	PTA活動等を通じた学校と家庭・地域社会と連携	PTAと共に生徒の心身の育成を図る(行事でのサポート体制の確立) PTA活動(役員会・総会)・同窓会行事の運営のサポート	
保健生徒環境部	知育	保健に関する情報の発信と環境衛生保全のための確認、報告	生徒保健委員会を指導し、月一回の保健便りの発行を行う。 環境衛生検査(水質・照度検査等)を実施し、各場所での保全に努める。	
	徳育	校内美化を推進、教育環境を整える	学期に一回校内の掃除が行き届いていない場所や破損箇所を把握し、改善を図る。 放課後に校内巡回をし、次の日の教育環境を整える。	
	体育	保健指導、生徒の心身の保持増進、健康把握と基本的な生活習慣の確立	インフルエンザ等感染症の予防、対応を適切に推進する。 生徒の心身の健康を把握し、スクールカウンセラー等と協力し生徒の学校生活を支える。	
研修進路部	知育	公開授業・研究授業の事後の評価など、授業者及び参観者への相互のフィードバック	各コースを超えての授業参観を奨励し、相互に参観しやすい環境を整える。 基本研修を中心として、同コースの先生方が参観できるほか、できる限り時間割変更を教務と連携して行う。	
	知育	校内職員研修の内容の精選と円滑な運営	生徒の安全管理に関わる内容や、水産に関連した研修を取り入れる。 円滑な業務遂行のため、職員間のコミュニケーションが取れる研修を取り入れる。	
	徳育	図書貸し出し冊数及び、図書館利用の増加	図書館オリエンテーション(1年生)や水高祭企画の実施。 校外研修を含めた図書委員会活動を活性化し、図書館を利用しやすい環境を作る。	
航海科	知育	将来の船員として必要な力を向上させる	海技士国家試験(筆記)合格者を複数出す。 乗船前指導の徹底により乗船実習の達成を図る。	
	知育	3年間を見通し、計画的に希望進路を実現させる	船員としての適性を考慮した効果的なコース選択の道筋をつける。 船員への就職率70%以上をめざす。	
	その他	船舶職員養成施設としての業務の円滑な運営	海友丸、2県との連携を密にし、乗船教育の充実をはかる。 海技免許講習・3級養成施設の登録更新、QSSの整理を行う。	
機関科	徳育	安全教育の徹底	実習における保護員の着用、安全管理マニュアルの確認の徹底。 工作機械の緊急時の取扱いを指導する。	
	知育	専門科目への意識付け	船舶機関士をPRする。 関連資格を取得できるように指導する。	
	その他	船舶職員養成施設としての業務の円滑な運営	海友丸、2県との連携を密にし、乗船教育の充実をはかる。 海技免許講習・3級養成施設の登録更新、QSSの整理を行う。	
マリンスポーツ科	知育	全員に有効な潜水資格を取得させる	潜水士資格については全員合格を目標に指導を行う ダイビング実技資格については各自の進路先に合わせて取得させる	
	徳育	パディシステムを確立し共助心を育成する	実習前の健康調査や器材点検等パディチェックを徹底する 潜水器材については個人管理を導入し物を大切にすることを育てる	
	その他	溶接・炭素など実践的な技術を習得させる	溶接については職員研修を進めるとともに社会人講師も活用する 炭素については具体的目標を定めて個別に指導を行う	
食品流通科	知育	学習への意欲・目標を持たせ、食品に関する知識を習得させる。	資格取得を計画的におこなう。 指導・評価を生徒に理解させる。	
	徳育	他者とのコミュニケーション能力取得を目的とし、社会での実践能力を身に付ける。	異校種間交流・地域イベントの参加。 挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守の指導を徹底する。	
	その他	新商品の開発。	地域との連携。 販売実習。	
アクアライフ	知育	学習に対する目標や意欲を持たせ、漁業・養殖業に関する技術および知識を確実に身に付けさせる。	シラバス等を活用し、授業や実習の目的を事前に明確にする。 生物飼育や漁業実習などの体験活動を多く取り入れる。	
	徳育	挨拶・身だしなみ・言葉遣い、安全意識等に関して、社会人・水産人として必要不可欠な資質を身に付けさせる。	挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守の指導を徹底する。 常に安全管理に配慮し、安全に対する意識を生徒に身に付けさせる。	
	その他	生徒一人一人の夢を実現させるため、早い段階から進路指導を行う。	卒業後の進路を早い段階で明確にさせ、個々に合った適切な指導を行う。 就職に必要な免許や資格を積極的に取得させる。	